

龍ヶ崎市公共施設再編成シンポジウムを開催！ 「次世代に公共施設を引き継ぐために」

■問い合わせ：企画課行政改革推進グループ内線 365

～龍ヶ崎市が目指す新しい「カタチ」とは～

全国的に課題となっている公共施設の更新問題。この問題は多くの自治体で共通の課題となっており、本市においても避けられない問題であると考え、今年2月に「龍ヶ崎市公共施設再編成の基本方針」を策定したところです。

8月10日（土）、文化会館小ホールにて200人近い市民の皆さんの参加をいただき、龍ヶ崎市公共施設再編成シンポジウムを開催しました。「インフラ老朽化の切り札『省インフラ』の可能性」と題した基調講演のなかでは、公共施設更新問題研究の第一人者である東洋大学経済学部・根本祐二教授から「公共施設再編成は施設とサービスを切り離すことが大切」「省インフラは日本の伝統であり、江戸時代の寺は宗教施設だけでなく、公民館、学校（寺子屋）と複数の役割をもっていた。その考え方方が大事」といった話がありました。

根本教授をはじめ、PHP総研・佐々木陽一氏と中山一生市長を交えたパネルディスカッションでは、「公共施設の維持にかかる財源は施設を減らすことで確保できる。妙案はない」「他自治体と比較すると、早めに公共施設の更新問題に取り組んでいるところはすばらしい」「それゆえに龍ヶ崎市はトップスピードで施設再編に臨んでいくべき」といった意見が出されました。シンポジウムに参加された皆さんからのアンケート結果（紙面の都合上、一部抜粋）を公表しますので、今後の公共施設のあり方についての参考にしていただければと思います。



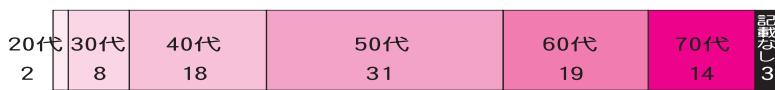
●参加者数：175人 回答者数 95人 回答率 54.3%

※グラフ中の数字の単位：人

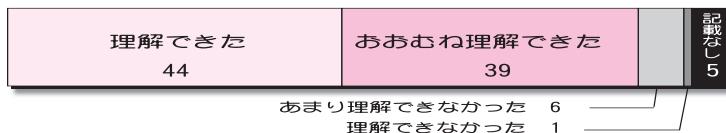
【性別】



【年代】



【シンポジウムの内容はいかがでしたか】

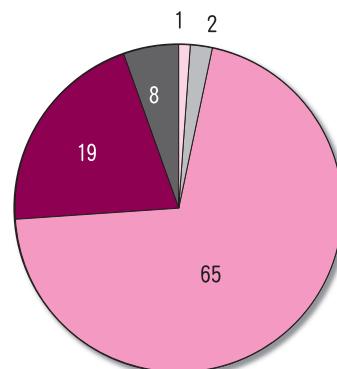


【シンポジウムに参加されて、特に印象に残ったことや龍ヶ崎市の今後の公共施設再編成について、ご自由にお書きください】

（紙面の都合上、代表的な意見を抜粋）

- ◎公共施設再編成は総論の十分な理解が必要
- ◎市民の協力や協調といった市民側の理解も不可欠
- ◎行政側の十分な広報（情報提供）も不可欠
- ◎将来を見据えて、早め早めに手を打つことが大切
- ◎龍ヶ崎市は公共施設更新問題に先進的に取り組んでいるということ
- ◎基調講演の根本教授の話「施設とサービスを切り離して考えることが重要」

【将来的な見通しを踏まえて、今後の公共施設の整備や管理運営についてはどのように進めていくべきだとお考えですか？】



- 公共施設はまだ不足しているので、今後も拡充（増やすこと）を考える
- 既存の公共施設を現状のまま維持し、耐用年数が経過したものは同規模で建替える
- 公共施設の必要性を見直し、市民ニーズや人口規模などに見合った内容に減らす
- 現在の公共施設の役割や効果を検討して、大幅に減らす
- その他

参加者の皆さん、貴重なご意見をありがとうございました。当市では現在、公共施設更新問題に詳しい有識者の方々と具体的な行動計画策定に向けた検討を行っています。今後、具体的な行動計画に移る際には行政側の力だけではなく、市民の皆さんのご理解とご協力が必要です。情報提供を随時行なっていくのでご協力よろしくお願いします。